

平成19年第19回県教育委員会会議

教 育 長 報 告

1 報告事項

教員候補者選考試験に係る調査委員会の調査結果の報告について

2 事項の説明

平成20年度沖縄県公立学校教員候補者選考試験の一次試験において、採点ミスが相次いで発生したことを受け、平成19年11月14日、教員候補者選考試験に係る調査委員会（以下「調査委員会」という。）を設置した。

今回、調査委員会において、採点ミスのあった教科について事実関係を調査し、その原因と責任の所在を明らかにするとともに、再発防止策の策定に向けた基本骨子を別添のとおり取りまとめた。

調査結果報告書（概要）

1 調査委員会について

教員選考試験の一次試験において相次いでミスが判明したことを受け、平成19年11月14日に調査委員会を設置した。調査委員会の主な目的は、採点ミスがあった教科について事実関係を調査し、原因及び責任の所在を明らかにするとともに、再発防止策の策定に向けた基本骨子を取りまとめて教育長に報告することにある。当該目的を達成するため、本委員会は、現存する関係資料の収集・分析及び関係職員への事情聴取を行った。

2 教員選考試験の概要等

教員選考試験は一次試験と二次試験があり、二次試験は、一次試験の合格者が受験する。受験生は29教科(小学校1、中学校7、高等学校17、中高共通3、養護教諭1)から1教科を選択して受験する。これらの試験に必要な試験問題及び課題の種類は、論文を除き全部で38種類、このうち、筆記の試験が27種類、実技課題が11種類となっている。

試験問題の作成等については、教員選考試験の教科が多種にわたることや、教科ごとの専門性が求められるため、庁内横断的な組織である選考委員会(作成委員、世話人、検討委員を含む)が行っている。

3 試験業務の流れ

※別紙参照

4 教科ごとの検証

(1) 一般・教職教養の配点指示ミス

試験担当者は、一般・教職教養の満点が90点であるにもかかわらず、180点と誤認し、配点1点とすべきところを誤って2点と業者へ指示した。その後、業者の採点処理で配点が2倍になっていることに気づき、2分の1処理し上司へ事後報告を行った。その際、業者の採点処理結果で、教職教養の得点について三桁の下一桁が表示されていないことに気付かず、得点を2分の1処理した結果、教職教養の50点以上が最終的に5点、5.5点、6点と表示された。

なお、小数点の5.5点については集計作業で気づき、四捨五入したため、6点となった。

▶ 例 55点 → 110点(2倍) → 11点(二桁表示) → 5.5点(2分の1処理) → 6点(四捨五入)

(2) 教職教養

正答を採点用マークシートへ転記する際、試験担当者が転記する職員に対して、誤って修正前の正答用紙を提供した可能性が高い。

(3) 小学校専門教科

理科については、残存資料が少ないこと等によりミスの原因特定は困難であるが、試験問題変更後、世話人又は試験担当者のミスにより正答用紙の変更が適正には行われなかった可能性が高い。

音楽については、作成委員が正答指定ミスをした可能性が高い。

(4) 高等学校(農業)

正答を採点用マークシートへ転記する際、試験担当者が転記する職員に対して、誤って修正前の正答用紙を提供した可能性が高い。

(5) 中・高等学校家庭

作成委員が試験問題を作成する際、又は世話人が解答を取りまとめる際、正答指定ミスをした可能性が高い。

(6) 中・高等学校保健体育

正答を採点用マークシートへ転記する際、試験担当者が転記する職員に対して、誤って修正前の正答用紙を提供した可能性が高い。

(7) 中学技術

作成委員が試験問題を作成する際、正答指定ミスをした可能性が高い。

(8) 高校地歴

世話人が解答を取りまとめる際、正答指定ミスをした可能性が高い。

5 過去の試験問題

(1) 調査の考え方

今回の検証では、配点や正答を指示する段階でミスが発生していたことが明らかになった。過去の試験問題を調査するにあたっては、この点に着目し、出題された問題及び採点用マークシートを照らし合わせる方法で確認する。

(2) 調査の方法

調査の実施主体は、組織体制や試験の専門性から、義務教育課を中心として今年度の作成委員が担うのが適切であり、遅くとも3月中に終える必要がある。

過去の問題及び解答については、保存されている平成19年度分について調査を行う。

6 原因と責任の所在

(1) 組織として抱える問題点

① 業務の執行体制

本年度から導入された組織のフラット化及び班制に伴う副担当配置が実施されておらず、実質的に担当職員が1人で業務を行っていたため、業務内容のチェックや進行管理が不十分であった。

また、“報告・連絡・相談”が徹底されておらず、業務の執行体制が不十分であった。

② 選考委員会の運営等

作成委員、世話人、検討委員の役割分担が徹底されておらず、試験担当者との連携も十分ではなかったため、配点記載漏れや正答指定ミスを発見できなかった。

③ 事務処理体制

以下のとおり事務処理体制が不十分であった。

ア 各委員相互間や試験担当者との間において意思の疎通が充分ではなかったこと及び資料の散在・混在化

イ 最終の検討委員会や教育長決裁後における試験問題の見直し作業の継続

ウ 保存期間1年の内規に反し、試験終了後、慣例に倣ってマークシート解答用紙が廃棄された。

エ 電算処理業務委託契約について、特記仕様等が明確にされていないため、電子データの一部滅失を誘引した。

④ 作業スケジュール

慣例に倣って作業スケジュールを作成したため、作成委員及び世話人は通常業務を処理する一方で、秘密保持に配慮しつつ、限られた日程の中で試験問題の作成に取り組んだ。

また、試験担当者においては、時間的制約の下、問題作成業務と試験運営業務の双方への対応に迫られた結果、精神的な負担と集中力の欠如を誘引し、配点や正答指定ミスを引き起こした。

⑤ 情報公開

試験問題及び解答の速やかな提供等、情報公開について、前年度までの慣例に倣って消極的であったため、採点ミス等に伴う合否への影響を最小限に食い止めることができなかった。

(2) 関係職員の責任

① 作成委員(試験問題等の作成において、事務処理が不適切。)※ミスのあった3教科

② 世話人(試験問題等の作成及び取りまとめにおいて、事務処理が不適切。)※ミスのあった5教科

③ 検討委員(試験問題等の検討が不十分。)※ミスのあった5教科

④ 試験担当者(不適切な事務処理の結果、受験者の合否に影響を与えた。)

⑤ 人事班主幹(試験担当者の不適切な事務処理に対し班業務の調整が不十分。)

⑥ 人事管理監(直属の上司として管理監督が不十分。組織的な問題に対する職務の遂行が不十分)

⑦ 義務教育課長(所属長として管理監督が不十分。検討委員長等として職務の遂行が不十分)

⑧ 教育指導統括監(義務教育課を統括する教育指導統括監として、また、選考試験全般を統括する選考委員会会長として管理監督が不十分。)

⑨ 教育長(組織・所属職員を指揮監督する者として、管理監督が不十分。)

7 再発防止策

(1) 義務教育課人事班の体制等の見直し

担当者を複数配置して試験問題作成事務と試験実施事務を分割するとともに、副担当を配置して担当者レベルのチェックを重層化するなど、分掌事務の見直しを行う必要がある。

(2) 選考委員会の運営方法やあり方の見直し

作成委員、世話人、検討委員、試験担当者の担当事務・役割分担を明確にし、各々の役割の認識を徹底するとともに、目的がより効果的・効率的に達成されるよう見直しを進める必要がある。

(3) 試験問題作成に係る一連の事務手順のマニュアル化

より具体的なマニュアルを整備して各種手順や様式等を示し、事務処理の統一化を図るとともに、各段階におけるチェック項目を明らかにしておく必要がある。なお、不測の事態に備え、危機管理マニュアルの作成も検討する必要がある。

(4) 教員選考試験事務に係る一連の作業スケジュールの見直し

より簡素で効率的な仕組みを構築するとともに、作問や問題検討の各段階において十分な事務処理期間が確保されるよう、教員選考試験事務に係る全体スケジュールの見直しを検討する必要がある。

(5) 事務処理の適正化

教育庁文書管理規程等に基づく内規の実効性を確保するなど、適正な文書管理について再確認するとともに、事務の基本的な事項について確認を行う必要がある。

また、電算処理委託契約に係る特記仕様等を定めるなど、様式の定型化、明確化を図る。

(6) 情報公開の推進

教員選考試験の透明性・公平性・公正性を確保する観点から、試験問題や解答の積極的な公表を検討し、非公開とするものについては、その根拠を明らかにするなどして、受験者をはじめ、県民の理解が得られるよう努める必要がある。

試験業務の流れ(概要)

日程	試験業務の流れにおける事実関係
4月11日(水)	○第1回選考委員会(選考方針、試験実施要項、日程等を協議)
4月16日(月)	○試験作成委員全体会議(作成委員の委嘱等)
5月7日(月)	○試験実施要項交付 ~5月18日(金)
5月11日(金)	○第1回原稿(試験問題、解答等)提出期限 ----- 第1回目提出原稿 ----- <ul style="list-style-type: none"> ▶ 配点記載漏れ(一般教養) ▶ 正答指定ミス(高校農業、中学技術) ▶ 正答指定ミスの可能性有り(教職教養、中・高家庭、高校地歴、小学校専門教科(音楽)) ▶ 不明(教職教養の配点記載漏れ、小学校専門教科(理科)の正答指定ミス)
5月14日(月)	○願書受付開始 ~5月18日(金)
5月15日(火)	○第1回問題検討委員会(検討委員からミスの指摘なし)
5月23日(水)	○検討委員及び作成委員(世話人)合同会議 ----- 第2回目提出原稿 ----- <ul style="list-style-type: none"> ▶ 配点記載漏れ(一般教養) ▶ 正答指定ミス(中学技術) ▶ 正答指定ミスの可能性有り(教職教養、中・高家庭、高校地歴、小学校専門教科(音楽)) ▶ 不明(教職教養の配点記載漏れ、小学校専門教科(理科)の正答指定ミス)
5月24日(木)	○検討委員による第2回目検討開始 ~5月31日(木) (検討委員からミスの指摘なし)
6月4日(月)	○最終原稿提出期限 ----- 最終提出原稿 ----- <ul style="list-style-type: none"> ▶ 配点記載漏れ(一般教養、教職教養) ▶ 正答指定ミス(教職教養、高校農業、中学技術) ▶ 正答指定ミスの可能性有り(中・高家庭、高校地歴、小学校専門教科(音楽)) ▶ 不明(小学校専門教科(理科)の正答指定ミス)
6月7日(木)	○最終問題検討委員会(最終的に、検討委員からミスに係る結果報告なし)
6月14日(木)	○試験問題等決定(教育長決裁) ----- 決裁添付原稿 ----- <ul style="list-style-type: none"> ▶ 配点記載漏れ(一般教養、教職教養) ▶ 正答指定ミス(小学校専門教科、高校農業、中高家庭、中学技術、高校地歴)
6月21日(木)	○世話人による試験問題の校正 ~6月28日(木)
7月22日(日)	○一次試験実施 ○配点指示表の作成及び採点用マークシートの転記作業開始 ~7月23日(月) ----- <ul style="list-style-type: none"> ▶ 配点指示ミス(一般教養、教職教養) ※ 試験担当者が満点90点を180点と誤認し、配点1点を誤って2点と業者へ指示 ▶ 正答指定ミス(小学校専門教科(音楽)、中高家庭、中学技術、高校地歴) ▶ 修正前の正答用紙を提供し、正答指定ミス(教職教養、高校農業、中・高保体) ▶ 小学校専門教科(理科)については原因が特定できない。
7月23日(月)	○配点指示表及び採点用マークシートを採点処理業者へ提出(一般・教職教養のみ)
7月24日(火)	○ " (一般・教職教養を除く教科を提出)
7月27日(金)	○採点処理業者による採点結果の納品(FD) ○選考委員会資料作成開始 ~8月1日(水) <ul style="list-style-type: none"> ▶ 試験担当者が一般・教職教養の得点を2分の1処理し、上司へ事後報告 ▶ 試験担当者が集計作業で小数点を四捨五入処理(教職教養の5.5点が6点と表示)
8月2日(木)	○第2回選考委員会(一次合否判定)
8月20日(月)	○二次試験実施 ~8月22日(水)
9月20日(木)	○第3回選考委員会(二次合否判定)
10月18日(木)	○委託業者による試験問題及びマークシート解答の廃棄処分 ~10月19日(金)
10月23日(火)	○総合順位と得点通知を発送
10月24日(水)	○受験者からの問い合わせ、情報開示請求
10月25日(木)	○決算特別委員会において、議員から採点ミスについて緊急質疑
10月26日(金)	○記者取材(教育長より、得点の入力ミスについて謝罪し、今後の調査と救済策を説明。) ○記者取材(教育指導統括監より、二次試験等の救済策をコメント) ○第4回選考委員会(二次試験等、今後の対応について検討) ○全教科の総点検を実施し、5教科7箇所(理科)の採点ミスが判明。
10月28日(日)	○記者会見(教育長が謝罪のうえ、今後の救済策と再発防止策を表明)
10月29日(月)	○教育委員会協議会(教育委員長が謝罪のうえ、今後の再発防止策等を表明)
10月30日(火)	○第5回選考委員会(一次試験合格者197人を選考) ○記者会見(教育長より、追加合格者197人、二次試験実施等を発表)
11月3日(土)	○追加合格者等へ通知し、電話連絡及びホームページで受験番号を掲載。
11月5日(月)	○全教科総点検実施(中学技術等の新たなミスが判明。)
11月7日(水)	○第6回選考委員会(中学技術等6人の追加合格を選考)
11月9日(金)	○記者会見(教育長より、一次追加合格者197人に6人を加え、203人と発表)
11月10日(土)	○全教科総点検実施(新たな採点ミスなどが無いことを確認)
11月12日(月)	○記者取材(教育長より、教員候補者選考試験に係る調査委員会の発足を発表)

※略記(高等学校(農業)→高校農業、中・高等学校家庭→中・高家庭、中・高等学校保健体育→中・高保体)